

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31 年 2 月 25 日

事業所名 放課後等デイサービスあいの葉

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・改善内容・改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	3	・個別支援を行う際は、2階を使用する。
	2	職員の配置数は適切である	6	0	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	0	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	2	・月一回、ミーティングを行っている。また、毎朝の朝礼時にて振り返りをおこなっている。書面に記録することで、認識の統一を図っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	4	・保護者からのご意見等をふまえて、職員間で検討を行い具体的な改善を図っていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	0	6	・今後、ホームページ、ブログを通じて公開していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	6	・保護者からのご意見に対しての具体的な改善策を図っていくとともに、第三者による外部評価も検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	2	・外部研修の参加頻度が少ないため、積極的に参加していく。また、事業所内研修も取り入れていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	・保護者面談や連絡帳、送迎時に情報共有を図り、計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1	・職員が共通認識ができるように、共通のアセスメントツールを取り入れていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	・朝礼等を通じて、職員間で意見を出し合いプログラムの立案を行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	・振り返りを行いながら、固定化しないよう工夫を行っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	0	・休日、長期休暇の際は、学習面、個々の困りごとに視点を向けて支援を行っている。平日もより充実した支援ができるようにしていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	・集団活動が主となっているため、個別活動ができるように改善をしていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	・朝礼にて前日の振り返りと当日の流れの話し合いを行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	3	・送迎があり支援終了後に行うことが難しいため、翌朝の朝礼にて出勤職員にて振り返りを行っている。また、情報の共有化に努めている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	療育日誌、連絡帳等で支援の検証、改善に努めている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	・モニタリング、保護者面談を行い、計画の共通認識を図ると共に見直しもを行っている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	1	・ガイドラインの事業所内研修を行う。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	・事前に情報を共有し、児童発達支援管理責任者もしくは、児童指導員が参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0	・連絡帳にて行っている。学校との情報共有については、今後学校との連携強化を図っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	4	・現在、医療的ケアが必要な児童の受け入れがない。・てんかん発作時に主治医に状態の報告を行った。主治医との連絡体制が取れるように体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0	5	・保護者の同意を得ながら、就学前の情報と各関係機関との連携を行っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	4	・障害福祉サービス等へ移行する卒業生がまだいない。今後、障害福祉サービス事業所との関係をもっていき、情報提供できるようにしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	4	・外部研修等に積極的に参加し、専門機関との連携を構築していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	6	・長期休暇等を利用して、地域の児童クラブ、児童館との交流を行っていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	6	・外部研修等を通じて、参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	・連絡帳、送迎時にてお伝えしている。また、適宜保護者面談の場を設けていく。
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	5	・モニタリング、保護者面談を通して状況を説明しながら行っていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	・契約時に行っている。また、質問があればすぐ応えることができるようにしておく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	・保護者面談や送迎時、連絡帳を通じて行っている。より保護者連携を図っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	6	・保護者が参加しやすい日程を調整し、保護者会を行う。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	・保護者から連絡事項があった際は、速やかに報告することを徹底しているとともに、職員間で情報共有をおこなっている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	4	・行事予定表にて、活動内容を確認していただいている。また、送迎時に活動内容についてお伝えしている。
	35	個人情報に十分注意している	5	1	・個人情報には十分注意しているが、事業所内研修を行っていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	1	・送迎時や連絡帳、保護者面談を通じてわかりやすくお伝えしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5	・地域住民との交流の場を今後設けていくように検討を行う。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	1	・マニュアルを一度見直し、周知を行う。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	3	・DVD等での事前学習を行い、非常災害時の発生時の対応について訓練を行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	3	・虐待防止法についての事業所内研修を行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	5	・契約時に説明を行っている。身体拘束はおこなっていない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	・フェイスシートにてアレルギーについて保護者より申告していただいている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	4	・ヒヤリハット報告書の作成の徹底と、職員間での情報共有を行っていく。